記者発表資料

令和４年５月１９日
国土交通省 東北地方整備局
能代河川国道事務所

日本海沿岸東北自動車道
二ツ井白神IC接続部の改良が令和6年度に完成！

○　日本海沿岸東北自動車道 二ツ井白神IC～大館能代空港IC間約20kmは、平成23年度に現道活用案に決定しています。(※1)

○　この区間においては、蟹沢IC～大館能代空港IC間の5．3kmが令和2年12月に開通し、二ツ井今泉道路4．5kmが令和5年度に開通予定であるなど、順次、整備を進めているところです。

○　これ以外の区間については、現道の平面交差点解消等の改良を3箇所で実施しており、このうち、**二ツ井白神IC接続部の改良が、令和4年度の予算と、工事進捗状況を踏まえた工程精査の結果、令和6年度に完成する見通し**となりましたので、お知らせいたします。(※2)

※1．現道を改良し、周辺の高速道路と一体的に利用するための整備を行うものです。
（ただし、小繋IC（仮称）～今泉IC（仮称）間の二ツ井今泉道路4.5kmはバイパス整備）
※2．工事の完成時期は、現地の状況により変更となる場合があります。

＜記者発表先：秋田県政記者会、能代市記者クラブ、北秋田市記者クラブ、大館市記者クラブ＞

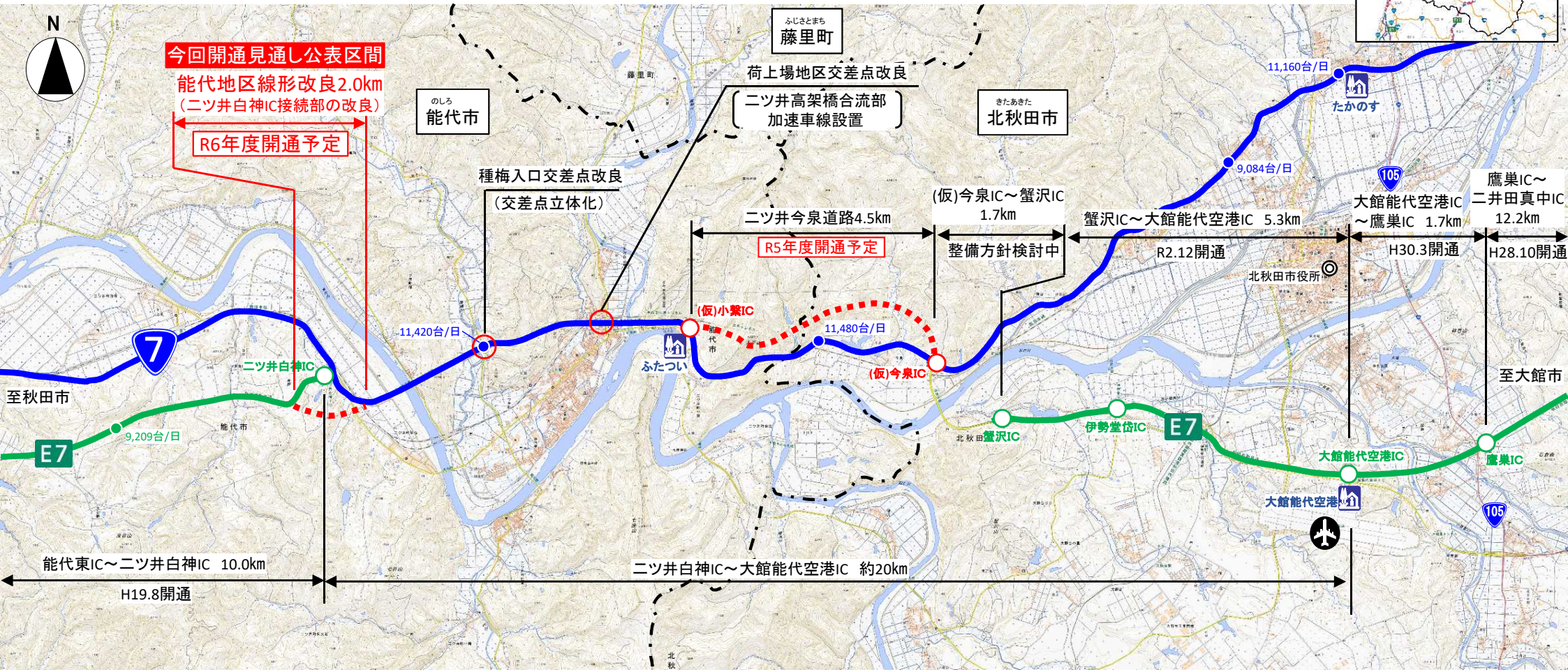
問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 能代河川国道事務所
TEL　0185－70－1001(代)
副所長（道路担当）　佐々木　稔　（内線205）

日本海沿岸東北自動車道　秋田県北地域の整備状況



現道の3箇所において、周辺の高速道路と一体的に利用するための改良を実施中



国道7号　能代地区線形改良

今回開通見通し公表区間

能代地区線形改良2.0km（二ツ井白神IC接続部の改良）

R6年度開通予定



計画横断図

写真①改良工事の状況（R4.4）



写真②橋梁工事の状況（R4.4）

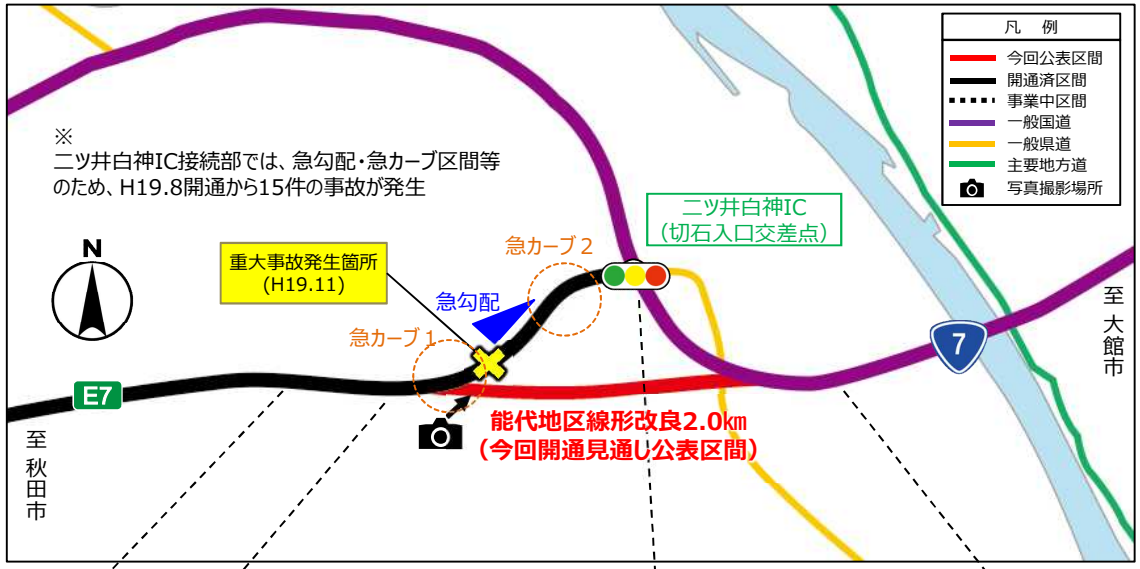


二ツ井白神ＩＣ接続部の安全性の確保（能代地区線形改良の整備効果）

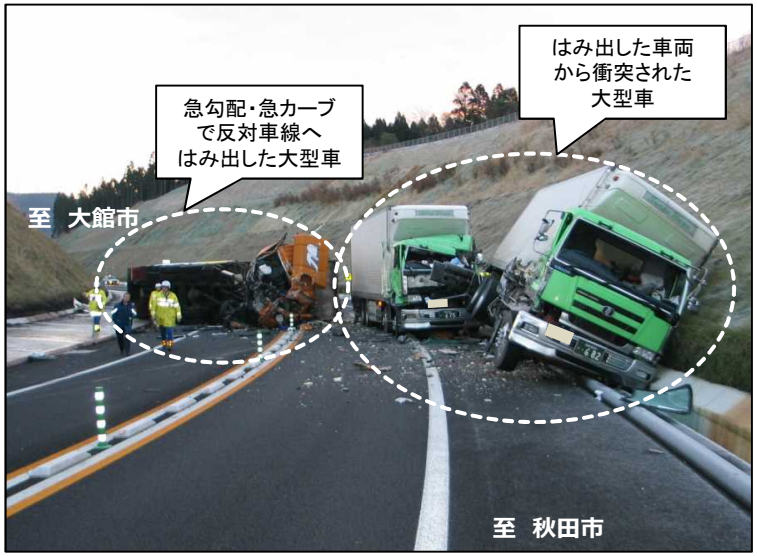
○日本海沿岸東北自動車道(Ｅ７)の二ツ井白神IC接続部は**急カーブ・急勾配となっており、正面衝突等の重大事故が発生**しているほか、**急ハンドル等の危険挙動は日常的に発生**。
（死傷事故率385.9件/億台㎞で県北地域ワースト2位。H19開通後、15件の交通事故が発生。急ハンドルは１日あたり20回以上発生。）

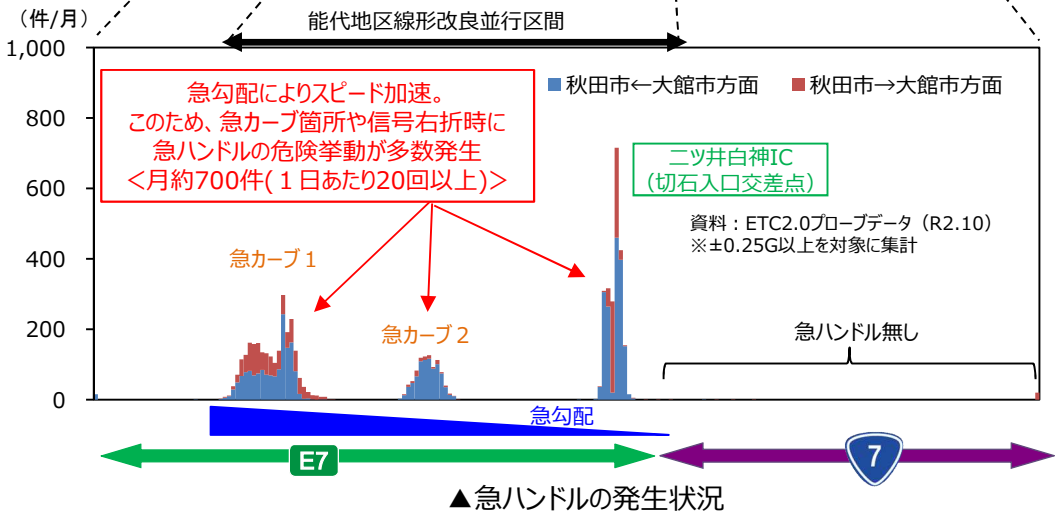
○能代地区線形改良の整備により、**急カーブや急勾配区間を回避した安全な走行が可能**。

▼事故発生状況



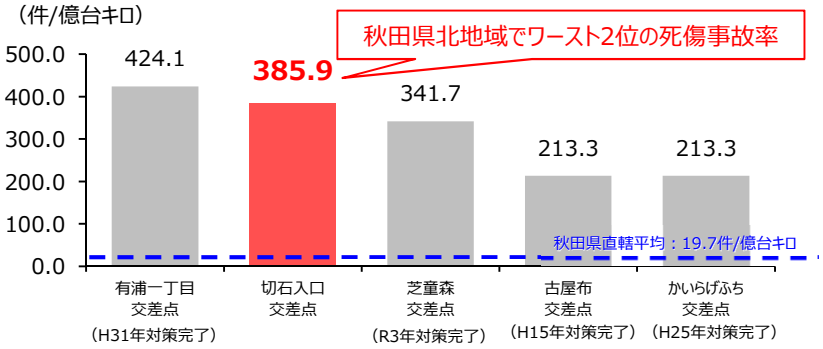
▼重大事故発生状況（H19.11）





▲急ハンドルの発生状況

▼秋田県北地域※の国道7号における死傷事故率の比較
（死傷事故率の高い単路・交差点ワースト5位）

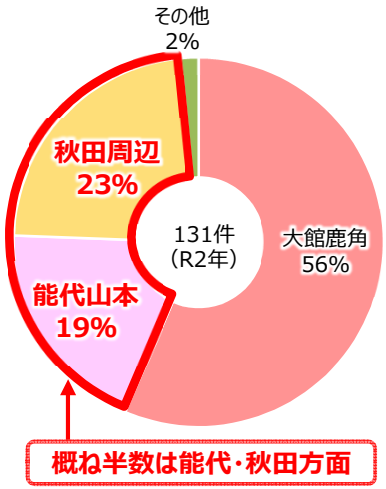


資料：イタルダデータ（H28～R1）
※能代市、三種町、八峰町、藤里町、大館市、北秋田市、上小阿仁村、鹿角市、小坂町

円滑な救急搬送を支援（県北地域の日沿道の整備効果）

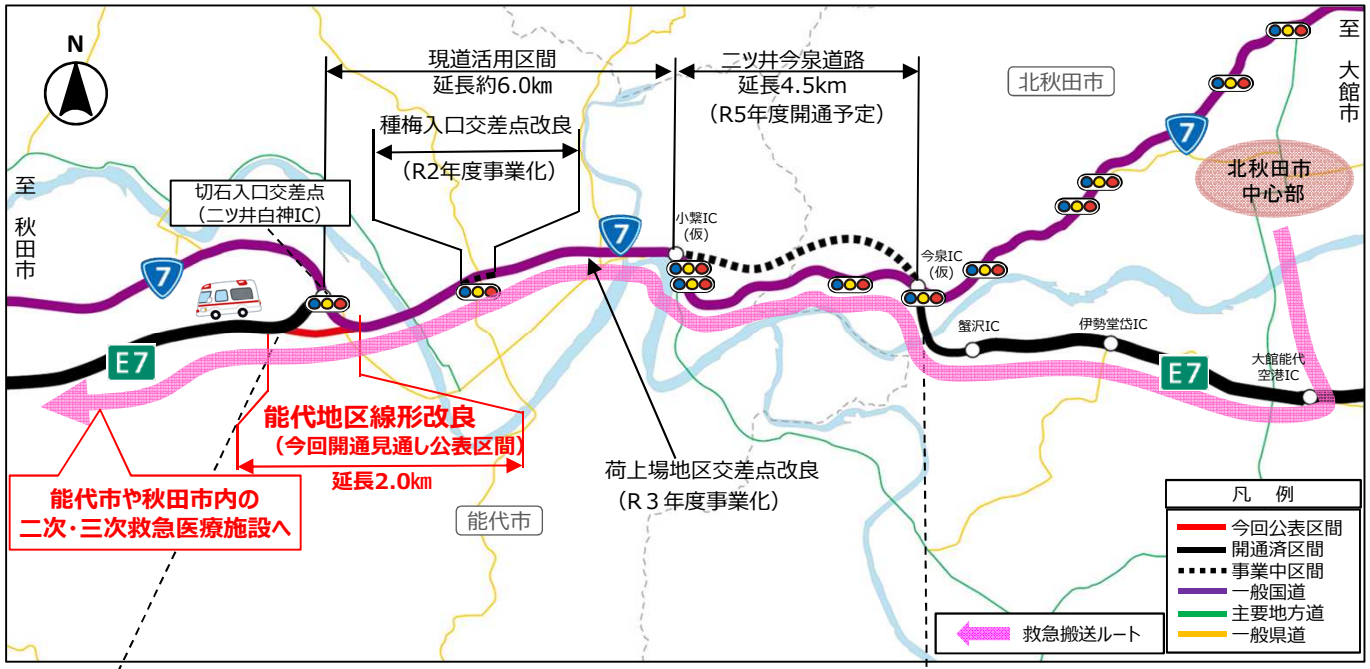
○北秋田市消防本部の管外搬送件数のうち、約4割が能代市・秋田市方面の二次・三次医療施設等へ救急搬送。
○日沿道沿線地域では脳血管疾患による死亡率が高く、信号交差点付近での減速等の発生により傷病者への負担に。
○能代地区線形改良を含む日沿道の延伸により、連続した安定走行が可能となり、円滑な救急搬送を支援。

▼北秋田消防本部の管外搬送件数割合

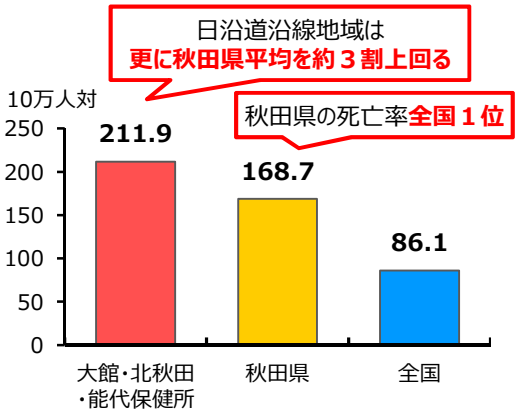


資料：北秋田市消防本部資料

▼北秋田市から能代市・秋田市内の二次・三次医療施設への搬送ルート

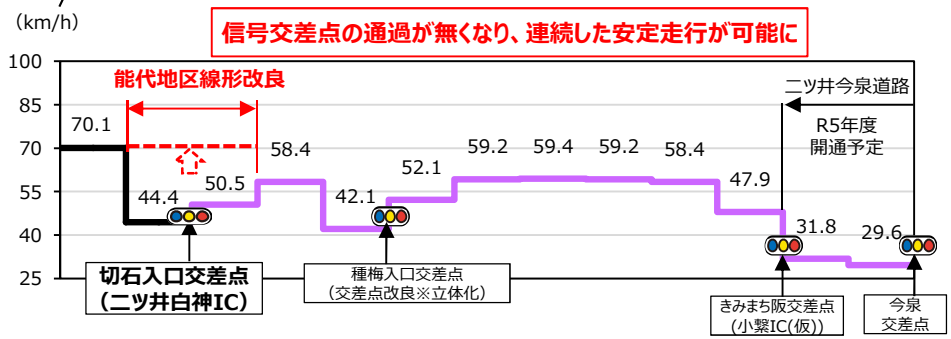


▼脳血管疾患による死亡率(地域別)



資料：R1秋田県衛生統計年鑑

▼冬期の旅行速度について（二ツ井白神IC～今泉交差点）



資料：ETC2.0プローブデータ（R2.12-R3.2）※朝ピーク（7時台）の上下平均速度

《救急隊員の声》

・信号交差点通過時の減速で揺れ等が発生し、傷病者への負担に繋がるので注意を払って搬送している。

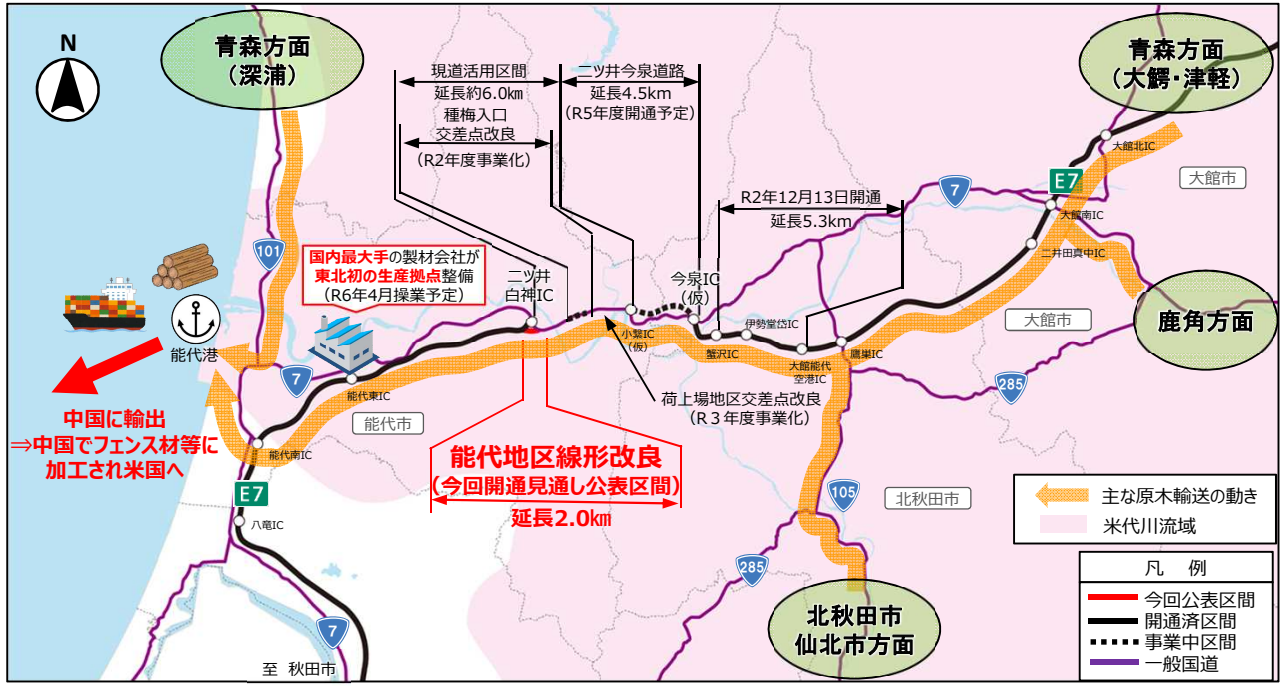
・救急搬送時間の短縮や急カーブ等の回避により、傷病者の安定輸送及び一刻も早い処置が可能となり、救命率の向上に繋がる。

（R3.8、R4.1 ヒアリング結果）

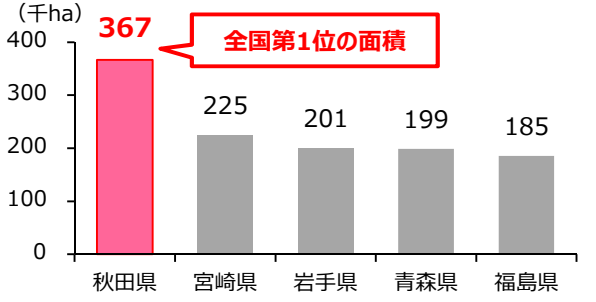
円滑かつ安定した物流を支援（県北地域の日沿道の整備効果）

○秋田県は人工林スギ面積が全国1位。能代港の輸出量は年々増加、Ｒ６年に国内最大手製材会社の工場が稼動予定。
○これまでの日沿道の延伸で連続した高速走行が可能となり、青森方面や秋田県北地域から能代港までの輸送回数が増加。
○能代地区線形改良を含む日沿道の延伸で、さらに連続した安定走行が可能となり、円滑かつ安定した原木輸送を支援。

▼日沿道を利用する主な原木輸送の動き

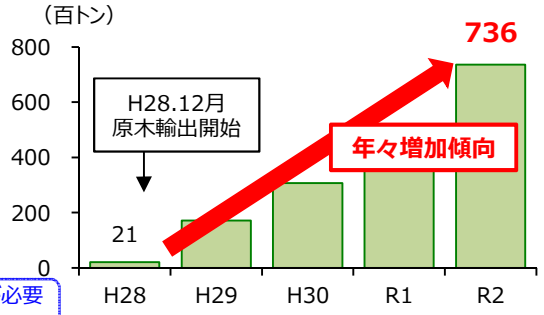


▼都道府県別の人工林スギ面積



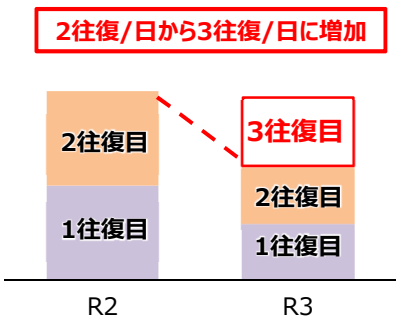
資料：林野庁HP　森林資源の現況（H29.3.31現在）※生産量上位５県

▼能代港の原木輸出量の推移



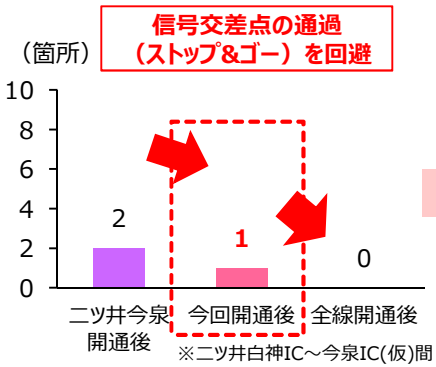
資料：各年港湾統計

▼青森方面(大鰐・津軽)・秋田県北地域から能代港までの輸送回数の変化

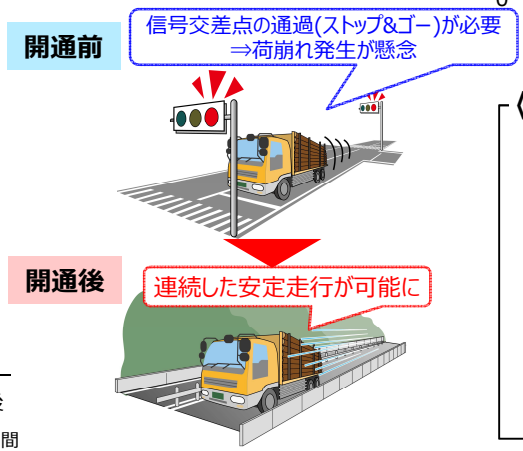


資料：R3.5物流業者ヒアリング結果

▼信号交差点数の変化



※二ツ井白神IC～今泉IC(仮)間



《原木輸送業者の声》

・これまでの開通した日沿道の区間では連続した安定走行が可能（ストップ&ゴーの解消）となり、走行性の向上も実感している。

・線形改良事業等の整備により今後原木需要のさらなる増加に期待。

（R3.5 ヒアリング結果）